

謀略と脅迫による中国侵略

戦争は違法 1928 年(昭 3) に日本をふくむ 63 カ国でむすんだ「不戦条約」は、国際紛争を解決するために自衛戦争以外の戦争を禁止していました。これを国際法では「戦争の違法化」といいます。したがって日本が満州占領の目的で、中国に戦争をしかけるなどは、当時でも国際法違反という非難を免れないものでした。関東軍は謀略という手段によって、戦争をはじめました。

「自存自衛」「アジアの解放」

日本が起こした満州事変 日中戦争、アジア太平洋戦争「15 年戦争」は、領土拡張や他国の支配をめざした、まぎれもない侵略戦争でした。それをいまだに「自存自衛」「アジア解放」の「正義の戦争だった」といいはる勢力が存在しています。残念ながら日本はアジア諸国からは、侵略戦争で甚大な被害を与えたうえにその反省もしない国として強い批判を受けています。領拡張の野心は、戦争の侵攻とともに、はてしなく膨れ上がって、アジア諸国にはかりしれない惨害をあたえ、最後には日本国民を未曾有の悲劇におとし入れたのです。

柳条湖事件

現地の日本軍（関東軍）は、満州を中国から切りはなし、日本の勢力圏にしようと、1931 年(昭 6) 9 月 18 日午後 10 時半に、奉天郊外の柳条湖で自らの手で南満州鉄道の線路を爆破し、これを中国人の仕業だといつわって、ただちに軍隊を出動させ、朝方には奉天市を占領するとともに、満鉄沿線の全線に出撃し「疾風のごとき神速なる行動」で主要な各都市を占領しました。(満州事変)

爆破現場の線路



死体を線路の側におき

中国軍服を着た死体



中国の仕業と宣伝した。

吉林侵攻

9 月 21 日には、吉林の特務機関を使って、日本人居住民の家に発砲 投弾させ、それを口実に「邦人保護」の名目で、第 2 師団が吉林に侵攻しました。(第 2 師団には高田・新発田の郷土部隊も参加)

燃える吉林の中国軍兵営



写真 日本の爆撃機に爆破された。(写真は『中国抗日戦争図誌』上巻 柏書房より)

満州事変・日中戦争 日本軍の侵攻作戦図



盧溝橋事件

1937 年(昭 12) 7 月 7 日、北京の近郊で、演習中の日本軍になにものかが発砲

した、というのです。現地では局地的なトラブルとして処理したが、日本政府は、よく調べもせず中国側の計画的な武力攻撃と断定し、大規模な派兵を決定。中

国との全面戦争に突入しました。

盧溝橋を渡る日本軍

(『写真記録 日中戦争』2,3 巻 ほるぷ出版より)

